

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第7号

令和2(2020)年10月16日
栃木県農業環境指導センター

施設栽培は予防・初期防除が重要です。保温開始前に防除しましょう！

予想期間 10月下旬～11月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、株率)。(－)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 日照不足等で、株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、ベルコートフロアブル等を使用する。
- (3) 対 策 ・ ほ場を良く観察し、初発を見逃さない。発生が見られたら、シグナムWDG等を散布する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比68%：ほ場率、平年比66%：株率)。(±)
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高いが、日照時間は少ないため、施設内の温度は上がりにくい見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- (3) 対 策 ・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- (3) 対 策 ・ カブリダニ類(天敵)導入時はハダニ類が多いと失敗しやすいので、気門封鎖剤や天敵に影響の少ない薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高いが、日照時間は少ないため、施設内の温度は上がりにくい見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内及び周辺の除草を行う。
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。被害が大きくなるおそれがある場合には、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
- (3) 対 策 ・ 10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の発生が多い傾向にあるので、注意する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比110%：ほ場率、平年比0%：株率)。(±)
- (2) 根 拠 ・ トマトのコナジラミ類の発生量はやや多い(平年比130%：ほ場率、平年比200%：株率)。(＋)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm以下のネットを張り、特に出入り口は2重にする。
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置による媒介虫の捕殺やコナジラミが見られた時はベストガード水溶剤、コルト顆粒水和剤等を散布する。
- (3) 対 策 ・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (3) 対 策 ・ 耐病性品種も本病に感染すると、伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト・きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ トマト・きゅうりともに発生量はやや多い
 (トマト・平年比 130%：ほ場率、平年比 200%：株率)。(+)
 (きゅうり・平年比 115%：ほ場率、平年比 275%：株率)。(+)
 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高いが、日照時間は少ないため、施設内の温度は上がりにくい見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 密度が増加すると防除が困難になるので、ほ場内に黄色粘着板を設置する等、早期発見・早期防除を行う。
 ・ 薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 9月第6半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並。(±)
 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・ 幼虫の齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	炭疽病	平年並	平年並	きゅうり	べと病	平年並	やや多
	アブラムシ類	平年並	平年並	ねぎ	ハモグリバエ類	やや多	やや多
トマト	灰色かび病	少	やや少	にら	白斑葉枯病	少	やや少
	すすかび病	多	多	野菜類	タバコガ類	やや少	平年並
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多	きく	ハダニ類	平年並	平年並

秋の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯病

・ほ場の再生稲(ひこばえ)は、本病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの増殖源と病原ウイルスの獲得源になります。早期の丁寧な耕起により、次年産の本病拡大を防ぎましょう。

○麦類種子伝染性病害

・近年、オオムギ斑葉病やムギ類黒節病等の種子伝染性病害が増加傾向にあります。種子消毒を行うとともに適期には種しましょう。

○ナシ黒星病(秋季防除)

・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。防除の際は周辺へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意しましょう。

☆農薬は適正に管理し、正しく使いましょう。

☆同一系統の連用を避け、RACコードを参考に異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間10月17日から11月16日 10月15日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	40%	40%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間	50%	30%	20%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](https://twitter.com/tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。